

杜陵
だより

第1-1号

発行: 岩手県立杜陵学園
(児童自立支援施設)
〒020-0124 盛岡市
岩手県盛岡市
川目3番1号
電話: 019-641-3365

巻頭言

岩手県立杜陵学園長

今野 浩彦

明治四十一年に盛岡市内の仏教各宗寺院三十七か所の住職の皆様の篤志により開設された杜陵学園は、その後、「大正」、「昭和」、そして「平成」の時代を経て、「令和」という新しい時代を迎え、今年の十月一日に創立百十一周年を迎えようとしています。

新しい時代を迎えたこの年に杜陵学園の歴史に新たなページを加える大きな出来事がありました。それは、六月二十六日から二十八日まで宮城県で開催された全国少年野球東北・北海道地区大会で二十九年ぶりの優勝を果たし、八月二十六日から二十八日まで開催される全国大会（大分県で開催）への出場権を得たことです。

最近の杜陵学園は、平成二十五年度と二十六年度に連続して地区大会で準優勝し、全国大会

に出場したものの、平成二十七年度と二十八年度は地区大会一回戦敗退、平成二十九年年度と三十年度は入園児童が少なくオーブン参加（試合に勝っても次の試合に進めない。）という状況でした。

今年度は、八名の子ども達でスタートし、四月と五月にそれぞれ一名の入園があり、地区大会時には小学生二名（小四男児一名、小六女児一名）、中学生八名（中二男児一名・女児二名、中三年男児四名・女児一名）と十名の在籍であったことから正式参加することができました。

野球経験がない子どもが殆どで、きつい練習やボールへの恐怖心などから弱音を吐く子ども

もいましたが、大会直前にはどの子どもも良いプレーができるようにと頑張って練習していました。試合では緊張しながらも、それぞれが自分のレベルに合った役割をしっかりと果たしていて、たくましさを感じました。

子ども達は今回の地区大会で優勝という荣誉に加え、それぞれが自信や達成感を得ることができたと思います。また、努力や協力することの大切さを学ぶ良い機会にもなりました。

まだまだ課題の多い子ども達ですが、今後も様々な体験等を通じて成長を支援していきたいと考えておりますので、保護者をはじめ学校、地域、関係機関の皆様には、一層の御理解と御協力をお願いいたします。

今年のグランド開きは児童 8 名でした。
ここから野球練習が本格化しました。

杜陵学園OB職員との練習試合。
毎年、貴重な実践練習の場となっています。

遠足

今年の遠足は、六月七日にくずまき高原牧場での体験学習です。普段の学園生活では経験のできない活動をする事ができました。

写真撮影から始まり、指導員さんの説明を終え、体験がスタートしました。最初は育成牛のお世話をしました。牛舎にいる牛たちに干し草を一輪車に積んであげました。最初は警戒をして近寄らなかつた牛も最後には喜んで食べているのを見るとみんなうれしうでした。次はしいたけ栽培管理体験。一人一本のしいたけを収穫した後は水につけた原木を運ぶ仕事。単調な作業でもがんばり続けました。

牛のエサやり体験。緊張しながらも積極的に取り組みました。

いよいよランチタイム。焼き肉です。午前中にお世話した牛さんが食肉になっていきます。牛乳もいただきました。美味しさの中にも命の大切さを考える機会となりました。

午後の体験はアイスクリーム作りです。二つのグループに分かれ、仲良くボールを囲んで作ることができました。お互いのグループで味比べもしました。自分たちで作った味は格別でした。残った時間で動物と触れ合い体験もできました。笑顔でうさぎを抱きかかえる姿はまるで家族同然でした。

(大森)

職場体験

中学二年生は、七月十二日、「働く意義を学ぶ」をテーマに、職場体験学習を行いました。今回受け入れて下さった田清魚店さんは、「人」を大切にするという企業理念を大切に、どの方も生き生きと働く、魅力あふれる職場でした。次々と訪れるお客さんで賑わい、忙しいにも関わらず、我々を温かく迎え、パツク詰めや品出しの方法など、優しく丁寧に教えて下さり、緊張していた生徒たちもすぐに打ち解け、進んで活動することができました。

インタビューの中で副店長さんがおっしゃった「楽しんで仕事をする事」を、まさに実践して見せてくれた一日でした。楽しむためには、その裏に努力があること、コミュニケーションを大切に働く姿や、誇りをもって働く姿を目の当たりにし、圧倒される思いだったようです。

今後は、まどめの活動に入りますが、帰りの電車の中で我先にと、熱くなって感想を話していたこと、感謝の手紙等から、生徒たちがいかに貴重な体験をさせて頂いたか、計り知れません。ご支援、ご協力ありがとうございました。

(渡邊)

職場体験を通し、働くことに大変さ、やりがい、スキル等を学ぶことができました。

全国少年野球東北・北海道地区大会

今年度の杜陵学園野球部は、「やる気スイッチ」をテーマに、練習開始時の気持ちの切り替えを意識して活動を開始しました。経験者が少ない中で、子どもたちには「ストライクとボールの見極め」等の基本練習を徹底して教えてきました。

試合前日の選手交歓会では、トーナメントの組み合わせ抽選を行い、杜陵学園は運良くシードに入り、初戦を突破すれば全国大会出場決定という形となり、対戦相手は宮城県のさわらび学園に決まりました。

さわらび学園との試合では、序盤、緊張からか、ほとんどの児童がいつもの通りのスイングをできていませんでした。

選手交歓会では主将がくじを引き、見事シードの番号を当てました。

試合直前。全員で円陣を組み、気合を入れます。

た。しかし、常に指導してきた「ストライクとボールの見極め」の成果が発揮され、四球を重ねて先制点を奪う等し、五―三で勝利を収め、全国大会出場を決めることができました。

大会二日目、杜陵学園は勢いそのままに、昨年まで4連覇中の秋田県千秋学園との決勝戦を迎えました。試合開始直後、相手チームの先頭打者にランニングホームランを打たれ、序盤から苦しい展開となりましたが、児童全員が気持ちを切らさず、何とか後続を断ち、最少失点に抑えました。その後は、杜陵バッテリー二人のランニングホームランが飛び出し、強豪千秋学園と互角の試合を進めていきました。試合は七回でも決着がつかず、延長戦に入りました。延長戦でも奮闘し、九回の表の杜陵学園の攻撃、一アウト一塁の状況で、これまで熱投

を続けてきた投手の児童が三塁打を打ち、ついに勝ち越し。その後も追加点を重ね、五―二で千秋学園を下し、二十九年振り五度目の優勝を勝ち取ることができました。

今大会を通して、児童全員がそれぞれの役割を果たし、チームとして一つになる姿を見ることができ、職員としても児童一人一人の成長を感じることができました。

全国大会は八月下旬に大分で開催されます。東北・北海道地区の優勝チームとして恥じないよう、これからの学園生活・野球に真摯に取り組んでいきたいと思えます。

この度は関係者の方々の方々の多大な支援によって、最高の結果を出すことができました。全国大会に向け、引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

(小野)

祝優勝！！

29年振り5度目！

新任職員紹介

今年度着任された先生方を紹介します。
園長 今野浩彦

杜陵学園は二年度より三年度目の勤務です。また子ども達と過ごすことができることを嬉しく思います。今の時代に求められる児童自立支援施設の役割や支援方法などを勉強しながら子ども達のために頑張ります。

上席児童自立支援専門員 長谷川寿子

六年ぶり二度目の勤務となります。子ども達が入所して良かったと思えるような支援が出来るように、職員皆と力を合わせて頑張ります。よろしくお願ひします。

児童自立支援専門員 石塚佑紀

杜陵学園は二回目の勤務です。体力の低下を感じておりますが、初心に返って頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

児童自立支援専門員 畑俊輔

盛岡広域振興局から異動してきました。不慣れなことばかりですが、子どもたちと一緒に成長していけるよう頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

主事兼職業指導員 阿部紘也

沿岸広域振興局(宮古局)より異動してまいりました。杜陵学園一年目、色々なことを子どもたちと一緒に自身も学び、頼られる存在となれるようがんばります。

分校・分教室教諭(体育) 石川顕貴

今年、北杜分校に来ました。保健体育を担当します、石川顕貴(いしかわ けんき)です。授業を通して、生徒たちの体力向上を目指したいと思ひます。よろしくお願ひします。



児童入所状況

月	4	5	6	7	延計
月初人数	8	9	10	10	
月中入所	1	1	0	0	2
月中退所	0	0	0	0	0

(単位:名)

皆様からのご意見・ご感想はインターネットで受け付けております。

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=423&ik=3&pnp=17&pnp=61&pnp=423>

主要行事(8月~12月)

- 8月：2学期始業式、夏休み明け実力テスト
全日本少年野球大会
- 9月：中間テスト
北奥羽児童自立支援施設スポーツ交歓会
- 10月：学習発表会
グラウンド納め
- 12月：2学期終業式、クリスマス会、冬季一時帰省

編集後記

慣れない編集作業に四苦八苦しながらも、なんとか令和初の杜陵だよりを完成させることができました。編集作業を通して、今年度の出来事を振り返る良い機会となり、改めて子どもたちの成長を感じることができました。今後も、まだまだ多くの行事を控えておりますので、子どもたちの充実した日々をお伝えしていければと思ひます。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願ひします。

(佐々木)